

お受験狂騒曲の
実態はこれだ

「壁に勧誘の成績グラフを張り出す」「1人紹介すると図書券500円プレゼント」

大手進学塾が小学生を「営業マン」に仕立て上げている!

全内容「プリンセス・マサコ」発禁騒動の一部始終

独占密着撮 米倉涼子&菊地凛子

激白王貞治「今年の僕はワガママになる」

週刊ポスト

2007 MAR.

3.9

330yen

労働者斬り捨て
の「戦犯」たち

過労死は自己管理の問題と 奥谷禮子の品性

経団連会長企業「キヤノン」の請負従業員が涙の訴え

労働審判科全委員にして人材派遣
会社「サテール」代表—その正体は?
放言

起立しないのはこの5人だ!

安倍政権「閣議崩壊」を 誌上実況中継する

- ◆小泉前首相と中川幹事長の「ホットライン」
- ◆「ポルノ小説」どころじゃない「隠れ議員特権」

- 出演者の個人情報と一緒に流出
「NHKスペシャル」の
「5股交際」「職場乱倫」日記

- 凶悪事件を追跡
埋められた銀座美人ホステス
「犯人2人との乱れた同棲生活」

急騰!これが注目の業界再編 10 銘柄だ
次の「サッポロ」「松坂屋」はどこだ?



「日本の天皇家ほど神話と謎に包まれた主題はない」という一節から始まり、雅子妃の苦悩を描いた過激な内容から物議を醸した「プリンセス・マサコ」。その邦訳本は、3月中旬発売を目前に、なぜ刊行を中止するに至ったのか。全内幕をリポートする。

「事実無根の侮蔑的な記述」

「読者が自分で読み、自分で判断すべきだ。なのに、日本政府はその基本的な権利を奪った。北朝鮮やミャンマーならともかく、こんな検閲が先進国であってはならない」

本誌の取材に対し、強い調子で日本政府を非難する



<全内幕>

たわけではなかった。はからずも『週刊朝日』の「おわび騒動」で本の過激な内容に対する世間の関心が高まり、宮内庁が邦訳本に神経をとがらせることになったとの見方がある。

東宮職ではなく 侍従長による抗議

第2幕が上がったのは、出版が近づいた今年2月。1日に宮内庁がヒルズ氏に、6日に外務省がヒルズ氏と

の、関係者60人以上を取材し、雅子妃の苦悩を描いた「プリンセス・マサコ」の著者、ベン・ヒルズ氏だ。ヒルズ氏がかつてオーストラリアの有力紙の東京特派員を務め、オーストラリアのビュリツツァー賞と呼ばれるウォークリー賞を受賞したこともあるジャーナリストだ。同書は昨年11月にオーストラリアで出版され、話題を呼んでいる。原書を読んだ宮内記者が語る。

「雅子妃の病気は公表されている適応障害ではなく、重度の鬱

病」。愛子さまは体外受精で誕生した。雅子妃の健康回復のために宮内庁が皇太子ご夫妻の離婚を検討していた。など、衝撃的な内容になっています」

その邦訳本が、今年3月中旬に講談社から出版される予定だったが、出版を間近に控えた2月16日、講談社から突然、出版中止が発

「『週刊朝日』おわび」の次は「邦訳本刊行中止」...

『プリンセス・マサコ』発禁騒動の

一部始終

「貴著「雅子妃―菊の玉座の囚人」について、この書簡を送ります」と始まる一文は、政府は、この本の描いている皇室像が如何に歪んだものであるかに驚き、対応ぶりを検討しています。その間、ここでは、天皇皇后両陛下の側近にお仕えして

いる立場から、両陛下に直接関わり、しかも明らかに事実と異なる一つの箇所に絞って、問題を提起します」と続けられている。

皇室ジャーナリストの崎敏弥氏が解説する。「雅子妃に関する本なのに、東宮職ではなく、両陛下の側近中の側近である侍従長の名で出ている。これは、両陛下のお気持ちを考えての抗議文だと考えることもできます」

確かに、抗議文では両陛下がハンセン病の問題などに深く関わってきた歴史を強く示している。これは、ヒルズ氏が「日本の皇室がハンセン病のように議論を呼ぶ事柄に関わりを持つことはあり得ない」と断定したことへの反論だ。こうした抗議内容がヒル



原題は『Princess Masako - Prisoner of the Chrysanthemum Throne』(右は著者ベン・ヒルズ氏)

渦中の著者ベン・ヒルズ氏は、「宮内庁こそ雅子妃に上下座して謝罪すべきだ」と怒りの反論